



わがまち推進計画 2013~2015



**永畑小学校区
わがまち推進計画**

2013~2015
編集・発行
永畑小学校区まちづくり協議会

永畑小学校区まちづくり協議会設立趣意書

今日、日本社会は大きな転換期を迎えようとしています。第2次世界大戦後、強力な中央集権体制のもと、様々な政策により大きな経済発展を遂げ、私たちは「物質的な豊かさ」といった繁栄を手に入れました。しかし、それは住民ニーズの多様化・複雑化をもたらし、また一方で地域コミュニティに対する関心を低下させ、結果として、多くの公共サービスを行政に委ねてしまうこととなりました。今後、世界に類をみない少子高齢社会の到来に加え、国・地方においても厳しい財政状況が続くことが予測されます。

これからは、自治の基本に立ち返り、「地域でできることは、地域で行う」、「地域だけでできないことは、行政と協働して行う」といった考えのもと、地域の自主的・主体的な取組みが重要になってきます。

ここ永畑地区は、旧大和川や奈良街道など、大阪と奈良を結ぶ交通の要所であった地区であり、それらに関する史跡が数多く残され、住民共有の財産として、今日まで受け継がれ親しまれています。私たちは、これらの先人たちが培った“財”から、知恵と努力を学び、人と人とのつながり、助け合いといった心の豊かさを再生させる「新しい社会」を創り上げていかなければなりません。

すでに、ふれあい祭りや敬老慰問演芸大会などの地域住民、世代間交流をはじめ、様々な事業を行い、「心の豊かさ」の再生に向けて動き始めていますが、このような動きを継続させ、更に発展させるためには「新しい社会」を築こうとする人たちの思いを永畑地区全体で分かち合うことが必要です。

また、地域住民のまちづくりに対する願いを大切に受け取り、実現するように努めていくことが肝要であります。

そこで、本地区で活動されている市民活動団体、地域住民が互いに協力し、地域共通の課題の解決に努めることにより、住民相互の連帯感と自治意識の向上を図るとともに、すべての住民が共に支え合い、ふれあいのある心豊かな地域共生によるまちづくりの推進を目指し、ここに「永畑小学校区まちづくり協議会」を設立します。

平成25年2月16日

永畑小学校区まちづくり協議会 設立準備会
会長 浅尾 繼三郎

目次

	はじめに	P1/P2
1.	永畑小学校区はこんな地域	
	(1) 永畑小学校区の概要	P3
	(2) 永畑小学校区のデータから見る特性	P3/P4
	(3) 永畑小学校区の特徴と課題	P5/P6/P7/P8
	(4) 「永畑小学校区の暮らしやすいまちづくりを目指して」 アンケート調査より	P9/P10
	(5) 主な自由意見	P11/P12
2.	こんな地域になったらいいね！ －永畑小学校区の将来像とまちづくりの基本方針－	
	(1) 永畑小学校区の将来像	P13
	(2) まちづくりの目標	P13
3.	こんな地域にしていこう！ －まちづくりの戦略計画－	P14
	(1) 情報が行きかう安全・安心なまち	P15/P16
	(2) 助け合いの心とぬくもりがあふれるまち	P17/P18
	(3) 歴史の魅力があふれ美しく活気があるまち	P19
4.	こうやって取り組んでいこう！ －まちづくりの推進方策－	P20



(1) わがまち推進計画の背景と目的

急速に進む少子高齢化、家族と離れて一人で暮らす人や家庭を持たずに個人で過ごす「個族」の増加といった家族形態の変化など、社会環境が大きく変化しています。

また、価値観の多様化により、物質的・経済的豊かさを追い求めるだけでなく、「より良く、自分らしく生きる」といった生き方の質を重視し、幸福を見出したいという想いが、人々の間で高まってきています。そうした想いを少しでも実現するために進められてきたのが「地方分権、地域分権」です。国の主導で進めてきた画一的なまちづくりの反省から、国と基礎自治体である市町村とが対等・協力関係に立ち、地域の自己決定・自己責任により、地域の個性や魅力を活かしたまちづくりを進めていこうという機運が、近年非常に高まっています。分権という固いイメージがあるかもしれませんが、自分たちが住んでいる地域を自分たちの手でよりよい地域とし、いつまでも住み続けたいと思えるようにするための取り組みの1つの姿です。

八尾市においては、地域分権の取り組みを進めていくために、平成22年度から各小学校区（地域の活動の状況に応じて中学校区）を「地域」の基本単位として、まちづくりを進める校区まちづくり協議会設立準備会が、順次、設置されました。

永畑小学校区では、平成22年12月16日に「永畑小学校区まちづくり協議会設立準備会」が発足し、八尾市地域まちづくり支援事業助成金を活用して、小学校区内の住民や各種団体が連携・協力しながら、地域の特性や資源を活かした個性豊かなまちづくりを進めてきました。

八尾市の第5次総合計画では、まちづくりの推進方策の中で、「地域のまちづくり」について方針が示されています。新たなニーズやまちづくりの課題を整理し、市民や職員の幅広い参画のもと、協働により、八尾市のあるべき姿が描かれています。

わがまち推進計画は、地域住民にとって一番身近な生活圏である永畑小学校区のあるべき姿を描くもので、地域の課題を解決する、あるいは、長所や魅力を伸ばし、育てていくといった、地域住民のニーズに応じたきめ細やかなまちづくりを実現するため、永畑小学校区の自主的・自発的・自律的なまちづくり活動の指針として策定するものです。

(2) 計画の位置付け

わがまち推進計画は、校区まちづくり協議会を中心とする「地域」が主体となって、地域のまちづくりや地域活動を進めていくために、地域住民の想いやまちづくりの方向性をまとめたものです。地域住民が「何に力を入れていくのか」「担い手をどうしていくのか」など、5年、10年先の地域のまちづく

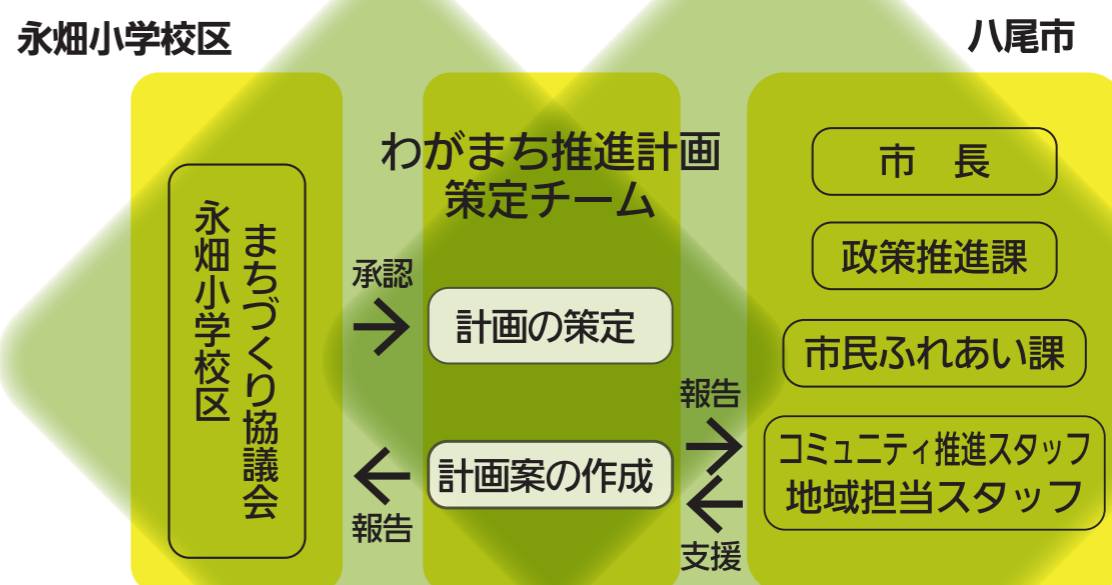
りの方向性を地域で話し合い、定め、みんなで共有していくための計画です。わがまち推進計画の作成にあたっては、市職員（コミュニティ推進スタッフ、地域担当者など）にも行政情報の提供や議論のサポートなど、支援を行っていただきます。

(3) 計画の構成と期間

わがまち推進計画は、地域の将来像とまちづくりの基本方針、戦略計画、推進方策で構成します。計画期間は、第1期として2013年から2015年までの3年間とし、原則3年後に見直し（必要に応じ見直し可）を行うとともに、当面、3年間に実施するまちづくり事業については、まちづくり戦略計画として位置づけます。

(4) 策定体制

わがまち推進計画は、まちづくり協議会設立準備会から選任された地域住民が中心となり、市職員（コミュニティ推進スタッフ、地域担当者など）の支援を得て原案を作成し、まちづくり協議会で承認を頂きます。



(1) 永畑小学校区の概要

永畑小学校は、昭和47年に龍華小学校及び志紀小学校から分離し創立されました。

校区は、八尾市制施行前の中河内郡龍華町の一部と八尾市と合併前の南河内郡志紀町の一部とで構成されています。

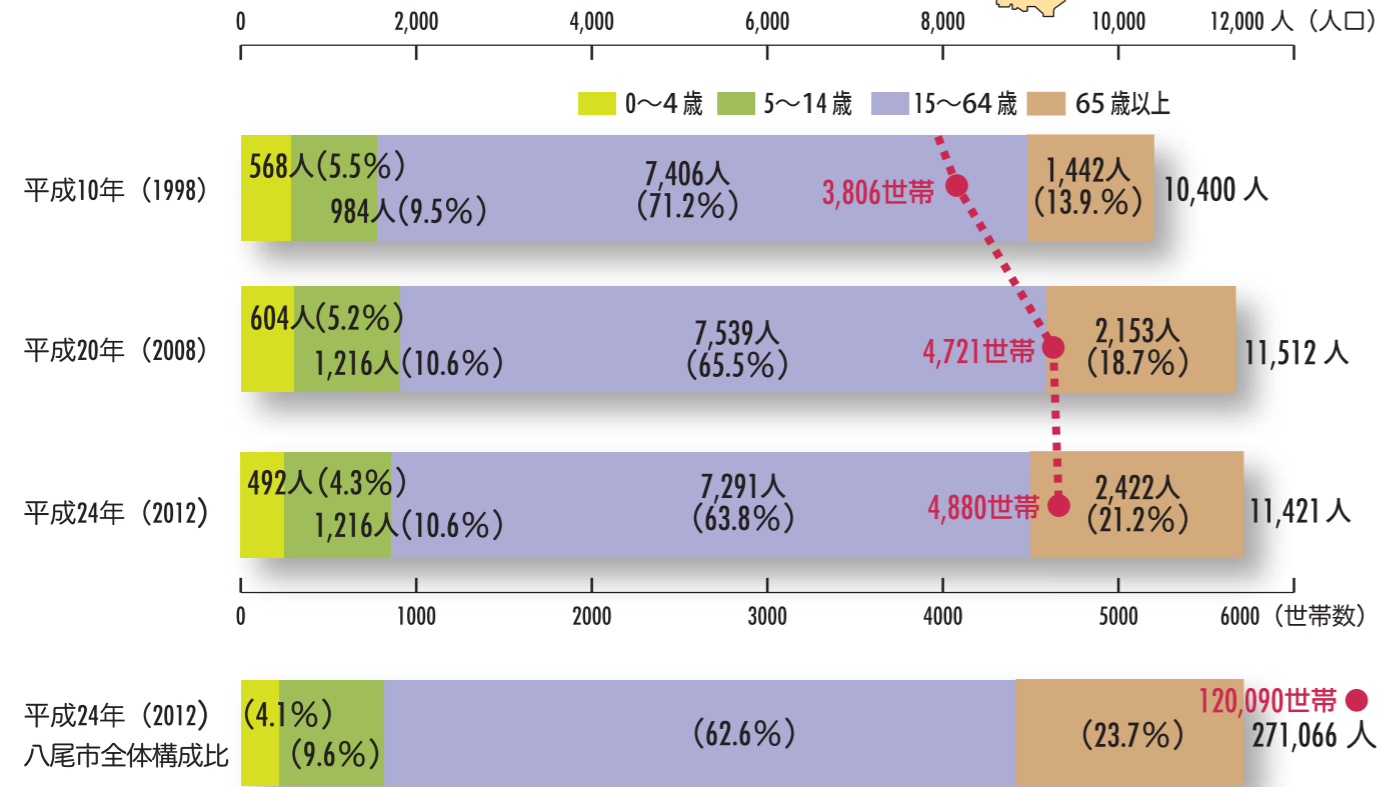
JR八尾駅及び渋川神社周辺と国道25号南側の杵築神社、白山神社周辺には、古く

からのまち並みが残っています。国道25号沿線には、大規模マンション、大規模店舗、自動車販売店、飲食店などが多くあり、国道の南側には、田園風景も残っていますが、新たな戸建て住宅なども増えています。



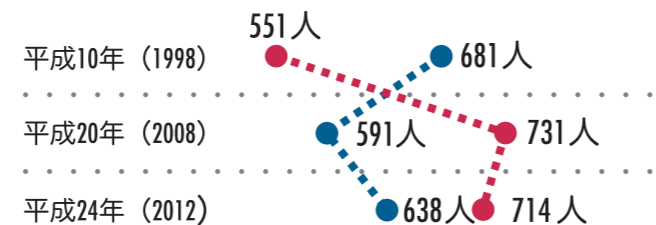
(2) 永畑小学校区のデータから見る特性

①人口と世帯数推移



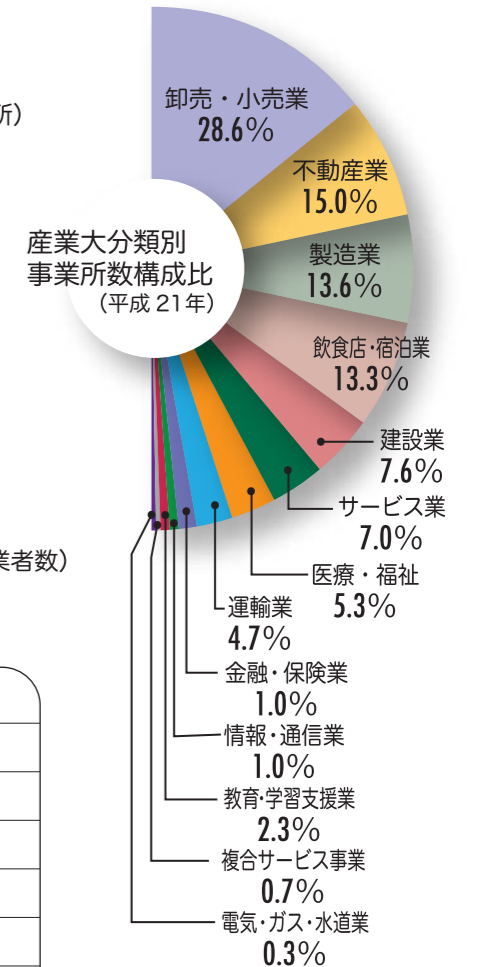
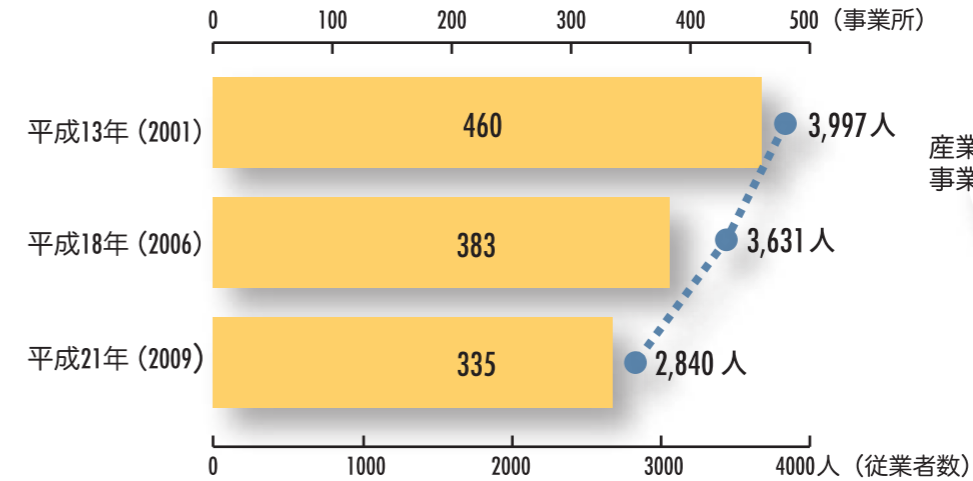
●平成24年の世帯数は、4,880世帯で、増加傾向にあります。平成24年の人口は、11,421人で、平成10年と比較して1,000人以上増加しています。65歳以上の高齢者の割合（高齢化率）は21.2%と全市平均の23.7%と比較すると低くなっています。ただし、少子高齢化傾向は永畑小学校区も例外ではありません。平成10年と平成24年の人口構成比を比較すると、65歳以上の人口の割合が7%以上増加し、他の年齢層は減少しています。

② 永畑小学校児童数と龍華中学校生徒数の推移



●小学校児童数は、平成10年と比較すると増加しており、中学校生徒数は減少しています。

③事業所数と従業者数の推移と産業分類別



④データアラカルト

		永畑小学校区	八尾市
世帯	世帯	4,880	120,090
人口	人	11,421	271,066
面積	k m ²	0.948	41.71
人口密度	人 / k m ²	12,047	6,499
高齢者数	人	2,422	64,162
高齢化率	%	21.2	23.8
小学校児童数	人	714	14,911
中学校生徒数	人	638	7,669
14歳以下人口率	%	14.9	13.7
事業所数	所	301	13,039
公園面積	ha	0.84	73.92
1人あたりの公園面積	m ²	0.74	2.73
狭隘道路率※1	%	44.9	32.5
幹線道路率※2	%	1.1	5.2
下水道普及率	%	95.4	85.8

※1 幅員4m未満道路延長÷校区内道路延長
 ※2 幅員12m以上道路延長÷校区内道路延長

●児童・生徒数、は比較的多く14歳以下人口率は八尾市平均より高くなっています。少子高齢化傾向はこの地区も例外ではありませんが、高齢化率も八尾市平均より低く、他の校区と比較して活気ある状態を保っていると言えるかもしれません。

今後も魅力あるまちづくりを通して子育て世代に注目される地区を維持していくことが重要かもし

れません。
下水道普及率は、95.4%で八尾市全体の85.8%を上回っており、**狭隘（きょうあい）道路率は 44.9%**で八尾市全体の32.5%を大きく上回っています。

(3) 永畑小学校区の特徴と課題

ポイント 1 地理・交通関連

永畑小学校区は、市域の南部を東西に走るJR大和路線八尾駅の南側に位置し、校区のほぼ真ん中を国道25号が東西に走っています。

バス路線は、近鉄バス（近鉄八尾駅～近鉄藤井寺駅間）が校区西端を南北に運行されています。最寄り駅は、ほぼ校区全域でJR八尾駅が利用されているようです。校区内の国道25号以南では、自転車を利用している人が多く、JR八尾駅周辺では、八尾シティーネット(株)運営による自転車駐輪場のほか、民間の自転車駐輪場が数ヶ所あります。

公共交通機関は、近年のJR久宝寺駅への快速停車、おおさか東線の開業などにより交通の利便性はますます高くなっていると言えます。

校区内の渋川神社周辺、老原の古くからのまち並みでは、狹隘（きょうあい）道路が多くなっています。通過交通はそう多くはないと思われそうですが、早朝や夕方は、狹隘（きょうあい）道路を通過してJR八尾駅に通勤通学で皆が集まってくるため、自転車での事故が心配されます。

地理的に見ても坂道などはなく、徒歩や自転車での移動が容易になっています。

市内の路線別事故発生件数を見ますと、近年では国道25号が一番多くなっており、交通環境の面では厳しい状況です。



JR八尾駅南側駅舎（平成24年12月）

ポイント 2 コミュニティセンター・集会所関連

校区内にある公共施設の龍華コミュニティセンターが永畑小学校区、龍華小学校区、安中小学校区、亀井小学校区の一部のコミュニティ活動の中心としての役割を果たしています。昭和40年に建築された旧労働会館分館を引き継いで、平成7年にコミュニティセンターとなりました。敷地面積約1,700㎡、延床面積は約700㎡で集会室、和室、料理実習室、会議室などがあり、地域での生涯学習の場や住民活動、地域福祉活動の拠点として活用されています。



龍華コミュニティセンター

しかし、建築後45年以上が経過し、建物自身の老朽化やバリアフリー対応の遅れなどの課題があり、市立病院跡地において、市立図書館との複合施設として建設が予定されています。

また、校区内には町会などを単位とした、地域住民によって自主管理・運営され、地域活動の拠点となっている小集会所が16ヶ所ありますが、コミュニティセンターの移設にともなって、永畑小学校区の中心部にまちづくり協議会の活動拠点として、会館の開設が強く望まれます。

ポイント 3 乳幼児・児童・教育関連

校区内には市立永畑小学校、市立永畑幼稚園があります。隣接する龍華小学校区内に龍華中学校があり、中学校区は龍華小学校区と永畑小学校区で構成されています。

永畑小学校の児童数は714人（平成24年5月1日現在）で市内29小学校の中でも多いほうといえます。

保育施設は、校区内にはありません。志紀小学校区、亀井小学校区、高美南小学校区内の保育所(園)を利用されているようです。

永畑小学校では、地域団体、地域住民により放課後子ども教室やすく子ども地域活動が行われています。また、中学校区ごとに地域子育て支援拠点事業として「つどいの広場」が整備されており、龍華中学校区内には龍華小学校区に「龍華おやこのひろば」が開設されています。

ポイント 4 福祉・医療関連

校区内の福祉関連施設としては、障がい者就業支援施設として、「ライフサポートおいばら」、障がい者通所施設として「あげぼのホーム」、「きっと」があります。高齢者関連施設では老原ふれあい農園があります。また、八尾市では高齢者の生活を総合的に支えていくために、市内を5つの圏域に分けており、永畑小学校区は第2圏域に属しています。「地域包括支援センターホーム太子堂」を中心に支援活動が行われています。

医療関連施設としては、校区内には医療機関が2ヶ所、歯科医院が2ヶ所（平成24年4月現在）あります。

ポイント5 史跡・自然関連

永畑小学校区には多くの歴史的な遺産があります。

平成21年5月、植松町一丁目に安中新田会所跡旧植田家住宅がオープンしました。江戸時代の和川付け替えによって生まれた安中新田の会所跡である建物を修復して、昔の暮らしを体験できる場として公開されています。



市指定文化財 安中新田会所跡 旧植田家住宅

植松町の南部・相生町の真ん中あたりを東西に奈良街道が通っています。大阪から亀の瀬を経て奈良へ向かう重要な古道で、相生町四丁目の植松共同墓地の所で八尾街道と合流します。街道のいたる所に道標が見られ、往時の賑わいが想像されます。また、街道沿いには植松小学校跡、簷葡舎(えんぼしゃ)跡、制札場(せいさつば)跡の碑などがあります。その他にも街道沿いや校区内には、この地を見守ってきた常夜灯があり、多くのお地蔵さんがおられます。

植松東口常夜灯と植松小学校跡碑
(現在はこの場所にはありません)



渋川神社

大阪府天然記念物・八尾市保全樹木に指定されている大きな楠が茂る渋川神社は、大和川付け替え前には、旧大和川の本流の一つである長瀬川の東岸(安中町の東部)にありましたが、天文2年(1533)5月の大洪水で流失し、元亀3年(1572)にもとのお旅所であった現在地に移建されたと伝わっています。広い境内では、子どもたちがいつも元気に遊んでいます。



松林地蔵(左)と簷葡舎跡



制札場跡

老原一丁目、田井中交番の南側の田んぼの真ん中くらいに五条宮址と呼ばれる高さ1m、周囲5m四方の塚状の地があります。付近の土中から奈良時代の古瓦が発見され、五条宮寺と称する寺址と伝えられ、現在は地名をとって老原廃寺といわれています。



白山神社

杵築神社

ポイント6 公共施設関連

●市立斎場、市立龍華墓地

校区内の南植松町三丁目に市立斎場と市立龍華墓地があります。市立斎場は平成14年に建て替えられました。平成17年から供用が開始された市立納骨堂とともに、近代的な施設になっています。斎場及び墓地ともに市民生活には欠かせない施設といえます。



市立斎場

市立龍華墓地

●龍華出張所

通称「コミセン」の役割の一部は(ポイント2)で触れましたが、「コミセン」には出張所が併設されています。住民票の写しや印鑑証明書などの各種証明書発行や市税、保険料などの収納「コミセン」利用手続き、地区自治振興委員会の事務局などの業務を行っています。また、災害時には第2避難所としての役割があります。

●JR八尾駅周辺整備

明治22年、関西本線(湊町～柏原間)開通とともに開業したJR八尾駅は、駅舎の老朽化はもとより、鉄道をはさんだ南北間の交通は踏切で遮断された状態になっています。現在、JR八尾駅周辺整備事業として、駅南北の市街地を結ぶ自由通路の設置、自由通路から鉄道利用が可能となる橋上駅舎、駅西側の渋川踏切の改良など安全性の向上を図り、周辺道路のバリアフリー化などの整備が進められています。



JR八尾駅舎 南西側イメージ図



南東側イメージ図

●消防施設



老原五丁目には、八尾市消防団志紀分団老原分隊があります。

●田井中交番

老原一丁目(老原1丁目交差点南西角)にあり、地域の安全・安心を担っています。

